

日本フンボルト協会 2019年度の活動方針 (2019年6月2日)

1. 2020年度年次総会

・2020年6月を目処に関西で開催する予定である。

2. ドイツ研究留学説明会は、総会の日程に合わせて、DAAD東京事務所と連携した形で開催を目指す。個別に実施することにも留意する。参加者の増加のために、各大学の担当部署への通知も模索する。

3. 支部長＝常務理事体制の下、引き続き、支部活動の発展を図る。支部における会員ネットワークの確立、大学別連絡責任者の体制の整備、支部総会の開催など、支部活動を着実に進める体制を作る。支部におけるDAAD友の会との協力と交流を進める。

4. 賛助会員制度の活用とともに、新会員の発掘を図り、日独の学术交流の基盤を拡大・強化する。支部活動への賛助会員の参加を図る。

6. 健全な協会財政を確立するために、協会独自の努力を積み重ねるとともに、会員の一層の協力をお願いする。具体的には、年会費の納入率が依然として低い状況であるため、納入率アップのための施策を検討すると同時に、各賞受賞者には賛助会員として、本協会への参加をお願いする。また、寄付金のなかから、財政安定化基金への一定の配分が予定されている。

7. 日独共同研究奨学金制度

・2018年10月から開始した日独共同研究奨学金制度募金は、今年度の9月末までであるが、目標額に達しない場合には、もう1年延長して、当初予定の奨学金給付期間を維持する予定である。

・上記募金は、会員については、同時に財政安定化にも資するものとして協力をお願いしている。今のところ、会員については、約200名程度の協力が得られているが、なお、一層の寄付を得られるように努力したい。

・2018年度に創設した日独共同研究奨学金制度は、応募が11件有り、選考委員会の審査により、2名の受賞者が決定される予定であるが、2019年度も募集をする予定である。

以上